



2025年 生活発表会「友達を助けよう！」 No.1

育てるって、どういうことだろう？

大きなかにかを見つけて「ずっとうさぎ組にいてほしい！」という声から、かにを飼うことになりました。しかし、「育てる」という言葉は知っていても、それがどういうことなのかははっきりしていない様子。そこで「育てる」とはどういうことなのかをみんなで考えてみました。

「育てるってどんなことだと思う？みんなはどんなことをすればいいかな？」
「一餌をあげる」
「みんなはどうやってここまで大きくなったの？」
「お母さんがご飯を作ってくれた！」
「お母さん、お父さんがいっぱい遊んでくれた！」

と、お父さん、お母さんたちが今まで自分にしてくれたことを言葉にして教えてくださいました。そんなやりとりを通して、「育てる」ということは、「自分達がかにの親になる」ということなんだと子どもたちは感じたようです。

その日から、かにに「おはよう」「また明日ね！」「ゆっくり寝てね、おやすみ〜」と優しく声をかけたり、お友達には「虫かごを叩いたらダメだよ」と注意するなど、かにとの関わり方に変化が見られました。また、虫かごの掃除や餌やりなどを積極的に行う姿も見られ、それだけ「自分たちが育てる」という意識を持っているように感じました。

これからもたくさんの生き物との出会いを通して、命の尊さを感じ、相手を思いやる気持ちや命を大切にすることを育てていきたいです。



みんなの友達 はやぶさくん



1学期に袋に空気を集めて遊んだ子ども達。次は、もっと大きな袋を使って遊びたい！という意見があり、何を作るかみんなで話し合いました。すると、うさぎ組で飼っていたかにかの「はやぶさくん」が死んでしまったので「はやぶさくんを作りたい！」という声がかき、大きな袋を使ってはやぶさくんを作りました。胴体ができたところで夏休みを迎え、2学期が始まった時に、はやぶさくんを見た子ども達は「足が足りないから足を作らないと！」と早速続きをしようとする姿が見られました。



何種類かの袋を準備し、そこから子ども達が足に選んだ袋は細長い傘袋でしたが、傘袋は透明なので「色をつけたい！」という子ども達の意見があり、油性ペンを使って色を塗りました。

何色を使うか、はやぶさくんの写真を見ながら考えると「赤！」「でもオレンジもあるよ！」「ハサミは白いところもあるね！」と、かにの色の特徴を見つけては言葉にして教えてくれる子ども達。その後は、みんなで考えた色を協力して塗っていきました。

色を塗り終わると、空気を入れます。口でふう〜と空気を入れると「膨らんだ！けど全部膨らまない」と長い袋を最後まで膨らませることに苦戦する子ども達。すると、あるグループが傘袋を持って走り出しました！「走ったらいっぱい膨らむよ！」「もっと早く走ったらもっともつ入る！」と勢いに乗って空気を集めると、袋がパンパンに膨らみました。みんなで試行錯誤しながら空気を集めた結果、とても立派な足が完成しました。



はやぶさくんに救おう！！

完成したはやぶさくんは、みんなからの人気者になり、触ったりぎゅーっとしたり、タッチしたりと、はやぶさくんと触れ合う毎日で、少しずつ空気が抜けて、いつしか「しなしな」になってしまいました。それに気づいた子ども達は「空気が抜けてる」「かわいそう」と、ショックを受けていました。そこで、みんなで元気がなくなってしまった「はやぶさくん」をどうするか、話し合いを行いました。

「どうして元気がなくなったのかな？」
「一触りすぎたのかも」「一ぎゅーってしたからかな」「一誰かが叩いた？」

という声がかき、作ったものも生き物と一緒に生きているみたいだね、という話題になりました。そこから、よりははやぶさくんへの思いが強くなり「はやぶさくんもう一回空気入れてみたら？」というある子の意見に、みんなが「いいね！」と大賛成！そこからうさぎ組の空気集めが再び始まります。



空気集めを何度か経験したことでコツを掴み、上手く空気を集められるように。しかし、問題が発生！



「袋を結ぶときに空気が抜けちゃう！」「結ぶのが難しい」と何人かが教えてくれたので、みんなでどうしたらいいかを考えました。「結べない時は輪ゴムで結んだらいい！」「テープでとめてもいいかも！」「結ぶ前に袋をくるくる回したらパンパンに空気集まったよ！」と、みんなからのアイデアや、実際にやってみたら出来た！という経験談をもとに再度、袋を結ぶ作業にも再挑戦してみました。

①袋をくるくる回したら空気が抜けない。
「空気がたくさん集まると、袋が大きくなって1人でくるくるするのがむずかしい。」
→「じゃあ2人でしてみる？」
→「1人がふくろを持って、もう1人がくるくるしたらいいんじゃない？」

②結ぶ際に輪ゴムで結ぶ。テープでとめる。
「テープでとめたら空気集められた！」
「輪ゴムは結んでる時に空気が抜けて難しかった。」



みんなで考えた意見を試して、コツを掴めたり掴めなかったり。それでも諦めずにどうしたらいいかを考え、問題解決に向かって追求し続ける子どもたちの姿が見られました。1人で難しいけれど2人でやってみるという素敵な意見もかき、友達と協力しながら空気を集める方法が1番うまくいったようで、友達と力を合わせる大切さを実感できたようです。

空気を上手く集められるようになり「もっと色々な場所で空気集めたい！」「扇風機使ったら空気すぐ集まりそう！」「うちわも風が出来るんだよ！」と、挑戦したいことがどんどん広がって行く子ども達です。



はやぶさくんとみんなの友達 No.2

空気を使ってはやぶさくを作った子ども達から、「はやぶさくんの他にも空気の友達を作りたい！」という声が挙がり「はやぶさく1人じゃ可哀想だもんね」とはやぶさくのことを思う発言もありました。そこで、みんなで意見を出してグループごとに好きな生き物を作ることになりました。グループごとにイメージを共有して製作するために、グループのみんなの意見を設計図としてイラストにまとめてもらい、設計図を見ながら製作スタートです！

うさぎチーム

うさぎチームは「私も描きたいのに・・・」「みんなで決めようよ・・・」となかなか話し合いや作業がうまくまとまらない様子。そこで保育者が間に入り「どうしたらみんなで考えて設計図が作れるかな？」と尋ねるとしばらくして「目とか耳とかで分けたいんじゃない？」という意見が出てきました。グループのみんなもその意見に賛成すると、「じゃあ私は耳を描く！」「目を描いてもいい？」「洋服はみんなで塗ろう！」とパーツごとに役割を決めて進める姿が見られました。そして、グループのみんなの意見が組み合わされた設計図が完成しました。



設計図をもとにした製作が始まると「私、目を作りたい！」「じゃあ鼻を作る！」と自然と役割を分け始めていて、設計図を作った際の経験が生かされているようです。

設計図ではうさぎの耳を傘袋で作ることにしていましたが、作ってみるとすぐに空気が抜けてしまい、思い通りの耳にならず・・・他の方法を考えていると「風船はどう？」と意見が出ました。細長い風船を準備すると「これがいい！」「でも長すぎるから曲げてもいいかも！」と、アイデアにアイデアを重ねていき、素敵なうさぎの友達が完成しました。

ライオンチーム



ライオンの製作は、設計図を見ながら進めていきますが、さらに「目は赤にした方がカッコいいよね！」「ライオンはなんでも食べるからギザギザの歯にしよう！」と、アイデアを追加しながら進める姿が見られました。

ライオンチームも立て髪を傘袋で考えてみましたが、実際にやってみると袋がうまく曲がらず、顔にフィットしないことに気づきました。そこで「画用紙でギザギザをつくれればいいじゃん」「じゃあ三角を切ったら出来るよ！」とみんなで意見を出し合って作り進め、カッコいいライオンが完成しました。



カッコいいライオンにしたい！という共通した思いがあるライオンチーム。「ライオンは牙があるんだ！」「歯が大きいよね！」「目はカッコいい目にしたい！」とお互いに意見を出し合いながら「カッコいい」を具体化しながら進めていきます。

話し合いを重ねる中で「立て髪も作らないと！」「立て髪って何？」「あ、ライオンの髪の毛だよ！」と自分の知らなかった言葉を、友達の説明で理解するという学びの瞬間も見られます。日々の活動や生活で保育者や友達と関わる中で自然に知識を広げ、相手に伝えるための表現なども学んでいるんだなと感じました。

立て髪は顔の周りだから曲がる袋（傘袋）で作ろう！と、最後まで意見を出し合い、よく考えて設計図を作ったライオンチームでした。

くじらチーム

クジラチームは「クジラだから大きい袋を使いたい！」「それいいね！」とスムーズに決まっていこうに見られましたが「色は黒だよ！」「いや、クジラは水色だよ！」と色の意見が合わずに2つに割れてしまいました。意見がうまくまとまるかなと心配しながら見守っていると、しばらくすると黒色で作った子の1人が「水色でもいいよ」と言い始めると、他の子もその意見に賛同し、水色で作ることになりました。年中児ながら、時と場合に応じて、相手の意見を受け止められる力が育っていることにとても感心しました。

クジラチームは、それぞれが描いたクジラからどのクジラにしたいかを選び、グループでの設計図を決めていました。グループの意見をまとめるにもチームごとにさまざまな方法を選択していて、子どもたちなりに考え、工夫して取り組もうとする姿勢を感じました。



クジラチームは大きいクジラを作りたい！という思いから袋を2枚繋げて製作しました。大きな袋ができ、次に設計図にある尻尾を作ろう！だけど、どうやって作るの？と製作が止まってしまいます。たまたま横のうさぎチームが細長い風船を使っているのを見て「尻尾もあれで出来そう！」と、気付いた子が教えてくれました。他のグループの良い所に気づき、目で見て学んだことを自分たちのグループに活かし、より良いものに工夫していく姿が見られました。



グループでの活動をしたり、クラス全体で話し合い（うさぎ会議）をしたりする機会が増え、少しずつ友達の話を聞く力が身につけてきているように感じます。まだ、自分の思いが強く、話し合いの中で意見がぶつかってしまうこともあります。そういった経験も大切な学びの1つだと感じています。これからも、自分の気持ちだけでなく、友達の思いや考えにも気づけるように、話し合いやみんなで意見を出し合う経験を重ねていきたいです。



橋づくり



～自由な表現を楽しむ～

日々、製作遊びやごっこ遊びをする中で発想がとても豊かなうさぎ組の子ども達ですが、テーマに沿って自由に身体表現をする遊び（クリエイティブ・ムーブメント）でも子ども達の表現力が発揮されています。色々なテーマに挑戦しますが、毎回子ども達の表現は想像をはるかに超えてきて、思わず笑みが溢れる楽しい活動です。

決まった正解があるわけではなく、テーマに応じて自分なりに表現するため足の先から指の先まで1人1人が違う表現をします。「他の子とは違う」表現をするということにも慣れていたり、友達の表現を見てそれを取り入れてアレンジしたり、子ども達の自分らしい表現がどんどん広がっています。この活動を楽しみながら子ども達は体の使い方を学んだり、表現力や想像力を身につけています。

これからも子ども達の表現の幅がさらに広がり、友達の考えや表現を認め合いながら一緒に活動を楽しめるように、日頃から子ども達の個性や自由な発想を大切にしていきたいです。



ボールになりきってみよう！

